

日本遺産とは

「日本遺産 (Japan Heritage)」は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

日本遺産 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 — 北前船寄港地・船主集落 —

日本海から瀬戸内海にかけての沿岸部に点在する北前船の寄港地や船主集落には関連する数多くの文化財が残されており、金沢市を含む全国45市町が、「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 — 北前船寄港地・船主集落 —」として日本遺産に認定されています (令和元年5月20日現在)。

金沢市では、市内に所在する計10件の文化財がストーリーの構成文化財に認定されましたが、そのほかにも北前船に関連する貴重な文化財やゆかりの地などが市内各所に残されています。

ストーリーの概要

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。

そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。

また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。

これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。



北前船の活躍と男たちの夢

北前船は、日本海・北海道と瀬戸内・大阪を結ぶ航路で江戸時代の中ごろから明治30年代にかけて活躍した帆船のことで、積み荷の運搬だけでなく、船主自らが商品の買い付けや売買を行い、莫大な利益を上げていたのが特徴です。

危険な荒波を命がけて越え、自らの才覚と努力で大きな商機をつかむ——海の男たちの描いた「夢」を紡いだまちには、彼らの遺した歴史遺産が今も残り、伝えられているのです。

アクセス — 金石・大野・粟崎 —

【バスでのアクセス】

- 金石・大野方面
北陸鉄道「中橋」バス停 (JR金沢駅から徒歩約5分)
60番「金石」 61番「大野」 63番「大野港」
- 粟崎方面
JR金沢駅 金沢港口 (西口) バス乗場 (4番のりば)
70番「粟崎・内灘駅・コマツ金沢工場」

【自転車でのアクセス】

- 金石・大野方面 金沢駅から約40分
- 粟崎方面 金沢駅から約45分

金沢市公共シェアサイクル まちのり
まちのり URL

日本遺産 北前船寄港地・船主集落 金沢探訪MAP
発行 金沢市
編集 金沢市文化財保護課
石川県金沢市広坂1-1-1 TEL.076-220-2469 2020年4月発行



荒波を越えた 男たちの夢が 紡いだ異空間

北前船寄港地・船主集落

金沢探訪MAP

— 金石・大野・粟崎 —

#KANAIWA
#ONO
#AWAGASAKI



10 紙本著色運湖真景之図

文久元年(1861)に依々木泉玄が描いた2巻の絵巻物で、大野川を中心とする当時の沿岸の村々を写実性豊かに描いています。大野町周辺の地理や生活を今に伝える貴重な文化財です。

金沢市指定文化財 (絵画) 個人蔵



9 中山家関係資料

この古文書群は、菅原町の町年寄役・中山主計家に伝来したもので、近世史料5,152点と近代史約2,025点からなり、中山家は江戸時代、加賀藩との交流や町年寄としての町方経営・港湾運送などの公的なものから中山家の由緒や家系、交友や嗜好などの私的な内容のものまで幅広く残っています。

玉川町2-20 金沢市立玉川図書館近世史料館
スワロフツリムルム館蔵 076-221-4750
休館：月曜日(休日・祭日を除く)・年末年始・特別整理期間
は開館、年末年始、特別整理期間



8 大野湊神社関係資料 (大絵馬)

大野湊神社は加賀宮腰の氏神を祀る古社で、絵馬は町人層の氏子衆に支えられ、さらに加賀藩の庇護も受けていました。大絵馬は絵師松波景栄の筆によるもので、安政2年(1855)に氏子町人らにより奉納されたものです。画面には幕末期の宮腰町の繁栄がいきいきと描き込まれています。境内には船主や船員たちが奉納した灯籠や狛犬などがあります。

寺中町1163 大野湊神社 見学の際には事前連絡必要 076-267-0522

石川県指定文化財 (歴史資料)



7 銭屋五兵衛家年々留附留帳

銭屋五兵衛は江戸後期から幕末にかけて活躍した北前船の豪商で、「銭五」の略称でも親しまれています。この古文書は銭屋五兵衛家の慶時の動向を書きとどめた帳面、年々留は文政11年(1828)から嘉永5年(1852)まで、ほとんどが銭屋五兵衛を知るための基本史料であり、銭屋五兵衛を継ぐべき重宝な資料として、銭屋五兵衛の隠居所の波瀾万丈の生涯を綴りつづける行川原銭屋五兵衛記念館で展示されています。

石川県指定文化財 (古文書)
076-267-7744
不定期公開 (展示日程は確認ください)



6 粟崎八幡神社奉納絵馬額面

粟崎町の粟崎八幡神社には、船の新造祝いや航海の安全・無事帰港を神に感謝して船主や廻船問屋たちが奉納した船絵馬が数多く保管されています。これらのほとんどは旧暦8月の秋季例祭に合わせて奉納されたものと考えられ、このうち7面は北前船の豪商・木谷(木屋) 藤右衛門一族が文化〜文久年間(1804〜1863)にかけて奉納したもので、画質・保存状態ともに優れ、江戸後期から幕末にかけての豪商の盛衰がしのばれる逸品です。

粟崎町49 粟崎八幡神社
076-238-3024
非公開 (特別公開あり)



5 大野町こまちなみ保存区域

大野町は金沢港の入口にあつて日本海に面する港町です。古くは北前船の要所として栄えました。町内には北前船寄港地として発展した住居の面影を色濃く残すまちなみが広がっています。現在では醤油や味噌などの醸造業が盛んに行われ、蔵を改装したカフェなどでは、醤油や味噌を使った料理やスイーツなどが楽しめます。

大野町内
金沢市こまちなみ保存区域



4 観田家住宅 主屋・西蔵

観田家住宅は金石の中心部にある町家住宅です。明治3年(1870)建築の数寄屋造りの建物は廻船問屋の隣屋左太郎の蔵敷と屋の接層左太郎の蔵敷と船の部材を用いるなど、北前船で富を築いた商家らしい特徴的な作りは、港町金石を代表する建築物の一つといえます。

観田家住宅 (主屋・西蔵)
076-267-7744



3 金石こまちなみ保存区域

金石は犀川河口の右岸にあつて日本海に面する港町です。古くより海上交通の重要な地であり、江戸時代には北前船の往来により様々な物資が集まる加賀藩の交易の中心地として繁栄しました。通りには下見板張りの町家が立ち並び、どこもくまなくかしきを感じれる港町のまちなみが広がっています。

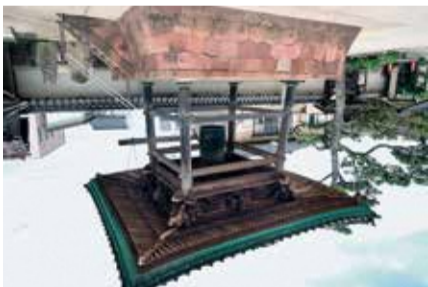
金石こまちなみ保存区域
076-267-1568



2 本龍寺 鐘楼

本龍寺は金石下本町にある真宗大谷派の寺院です。鐘楼はいわゆる鐘撞き臺の姿に見ることができ、みにあり、通りからその姿を見ることができ、赤戸窓石の端正な基壇の上に建ち、各所に美しい彫刻を見ることができ、江戸時代末期に活躍した船主・川瀬嘉左衛門の寄付によって建てられたものです。

金石下本町1-23 本龍寺
076-267-1574
見学の際には事前連絡必要

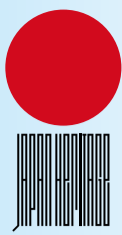


1 専長寺 松帆樹

専長寺は金石味噌屋町にあった北前船の豪商・銭屋五兵衛の隠居所の茶室で、金石御塩蔵町北側の上蔵に隣接して再建です。松帆樹は本堂より文政4年(1821)に名付けられました。現在の専長寺は寛正6年(1465)で、寺号は運如院です。創建は寛正6年(1465)で、寺号は運如院です。創建は寛正6年(1465)で、寺号は運如院です。

専長寺 (松帆樹)
076-267-1574
見学の際には事前連絡必要





荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 北前船寄港地・船主集落

金沢探訪MAP



大野からくり記念館

大野町4丁目甲2-29 ☎076-266-1311
休館：水曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
大人300円/小人200円



石川県銭屋五兵衛記念館

金石本町口55 ☎076-267-7744
休館：12~4月の火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
大人500円/小・中・高生350円



金沢海みらい図書館

寺中町イ1-1 ☎076-266-2011
休館：水曜日(祝日・振替休日と重なった場合は開館)、年末年始、特別整理期間



大野からくり記念館

大野町お台場公園
大野大橋
大野灯台

大野 Ono

金沢海みらい図書館

寺中町イ1-1 ☎076-266-2011
休館：水曜日(祝日・振替休日と重なった場合は開館)、年末年始、特別整理期間

金石 Kanaiwa



西の宮社

金石町小学校前
相生町

石川県銭屋五兵衛記念館

金石東
あけぼの北口

銭五の館

大野湊緑地公園
大野湊神社

金沢海みらい図書館

寺中町
寺中

金石 Kanaiwa

金石地区はかつて宮腰(みやのこし)と呼ばれた、日本海に面した犀川の河口付近にある港町です。江戸時代には多数の船が入港して栄え、また、加賀藩の財政を支えた北前船の豪商・銭屋五兵衛を生んだ港町でもあり、北陸の重要な港湾の一つでした。明治時代以降、流通拠点としての勢いは次第に失いましたが、現在は漁港としての金石港があるほか、古い寺社や港町の面影を残す古い町並みが残っています。

金石の北前船船主 - 銭屋五兵衛 -

醤油醸造業や金融業などを手広く営む家に生まれ、先代が海運業を始めました。五兵衛が家督相続した後、39歳の時に海運業を再開し、以降、北海道~大阪間の北前船航路において蔵米や木材、海産物などを主に扱って莫大な利益をあげ、加賀藩でも有数の豪商となりました。しかし晩年は河北潟埋立事業の疑獄事件により獄死するなど悲運なものでした。

祭礼 大野湊神社夏季大祭(金石夏まつり)

神輿に乗った祭神が大野湊神社から仮殿へと遷り、最終日に再び神社へと戻る渡御選御が行われます。神輿には曳山や太鼓台が続き、獅子舞や悪魔払いなども行われます。

金石市指定文化財(無形民俗文化財)
毎年8月第1日曜日を含む金・土・日曜日
祭礼の問い合わせ：☎076-267-0522 (大野湊神社)



大野湊神社夏季大祭

祭礼 大野湊神社寺中神事能

加賀藩2代藩主前田利長が関ヶ原合戦の戦勝報告として慶長9年(1604)に行われたのが始まりです。境内にある能舞台で春の例祭の正午から行われます。

金石市指定文化財(無形民俗文化財)
毎年5月15日
祭礼の問い合わせ：☎076-267-0522 (大野湊神社)



大野湊神社寺中神事能

大野 Ono

大野地区は河北潟から日本海に注ぐ大野川の河口付近にある港町です。江戸時代の終り頃から明治時代にかけて北前船の拠点として繁栄したほか、紀州(今の和歌山県)より伝わったとされる醤油造りなどが盛んに行われました。昭和55年の金沢港開港により周辺の景観は大きく変わりましたが、現在では町家や蔵元をギャラリーやカフェに改築するなど、新たな魅力の発信が盛んに行われています。

大野の北前船船主 - 丸屋伝右衛門 -

幼少期に家業が一時衰退するものの、家督相続後に家業の挽回に奔走し、遂には大小数十の船を所有するまでになったとされています。大野日吉神社には伝右衛門をはじめとした丸屋一家が寄進した灯籠や狛犬が今も残されています。

祭礼 大野日吉神社例大祭(山王祭)

神輿や太鼓、奴行列や獅子舞が町内を巡り、天狗や鬼の面をつけた高校生による魔除けの舞「山王悪魔払い(金石市指定無形民俗文化財)」が行われます。

毎年7月第4土曜日と翌日の日曜日
祭礼の問い合わせ：☎076-268-3896 (大野町公民館)



大野日吉神社



大野日吉神社例大祭

粟崎 Awagasaki

粟崎四丁目
粟崎五丁目
粟崎三丁目
粟崎二丁目
粟崎一丁目
粟崎公民館
粟崎八幡神社
粟崎交番
上の清水
粟崎南口
粟崎小学校
粟崎御旅屋御亭跡

大野北
大野南
大野南
大野南
大野南
大野南
大野南
大野南

内灘町
旭ヶ丘
木谷家墓所
粟崎地蔵尊(身代わり地蔵)
内灘湊大橋
木谷公園

港エネルギーセンター
臨海水質管理センター
新川橋
港中学校

湊簡易グラウンド
五郎島大橋
五郎島口
近岡

金沢港
金沢港大橋
金沢港
金沢港

金沢港
いぎいぎ魚市
クルーズターミナル
まちのりサイクルポート(金沢港クルーズターミナル)

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

大野からくり記念館
大野お台場公園
大野灯台

粟崎 Awagasaki

粟崎地区は大野川の右岸に位置します。その由来は古く、「源平盛衰記」に「青崎」の名が見え、かつては河北潟と日本海を結ぶ大野川の地の利によって海産物や魚肥などを扱う港町として大きく繁栄しました。明治時代以降は海運業の衰退により徐々に戸数が減少しましたが、近年では区画整理などにより金沢郊外の住宅地の一角を担っています。



粟崎八幡神社

粟崎の北前船船主 - 木谷藤右衛門 -

木谷家は由緒によると元は西国の武士で粟崎村へ移住したと伝わっています。藩に収める薪や木材などを扱うなどして家業は次第に大きくなり、5代藤右衛門の時に藩の御用米の運用などで大きく成功し、苗字帯刀や藩主謁見の許可など破格の待遇を得ていました。その後も木谷家は商いを継続し、明治時代以降は地元発展に大きく寄与しました。

祭礼 粟崎八幡神社秋季例祭

「御廻り(おまわり)」と呼ばれる神輿行列が行われます。悪魔払いを先頭に、獅子舞、奴行列、子供神輿、榊神輿、本神輿が町内をにぎやかに練り歩きます。

毎年9月第2日曜日を挟む土・日・月曜日
祭礼の問い合わせ：☎076-238-3024 (粟崎八幡神社)



粟崎八幡神社秋季例祭